都市臨海部の水辺空間における利用状況および利用者の意識
－福岡市の民間マリーナにおけるアンケート調査結果－

Utilization Status and Visitors' Perception at Urban Waterfront Area
－Results of Questionnaire Survey at Private Marina in Fukuoka City－

片山正敏*
Masatoshi Katayama

In planning and designing a marina for public marine recreation to be involved in waterfront development, it is very important to grasp the significance of the waterfront for the urban residents and reflect it into the environmental consideration by clarifying the processes of variation in their behavior and perception as visitors to the waterfront.

From this point of view, a questionnaire survey was conducted and analyzed to investigate the utilization status and the visitors' perception at a public marina in Kitakyushu City, as reported in detail previously. Another questionnaire survey similar to the above was conducted at a private marina called "MARINOA" in Fukuoka City.

Subsequent to the previous report, in this paper, the outlines of "MARINOA" and the questionnaire survey in Fukuoka City are described, followed by the detailed results of the questionnaire survey and its analysis.

Keywords:(Private Marina, Waterfront Development, Marine Recreation, Questionnaire Survey)

1．はじめに

都市臨海部水辺空間の利用形態の一つとして、近年の海洋性レクリエーションの要請に対応した「マリーナ」が挙げられる。このようなウォーターフロント開発関連施設の基本計画・設計にあたっては、利用者である都市住民の水辺空間に対する行動・意識過程を明らかにするとともに、都市生活者にとっての水辺の意味を探り、環境計画などに反映することが大切である。

この観点から、わが国における政令指定都市の一つである北九州市の"公共マリーナ"新門司マリーナにおいて「利用状況および利用者の意識」に関するアンケート調査を実施し、その結果についてはすでに報告した。[1)]

引き続いて、平成5年4月に開業した政令指定都市の一つである福岡市の"民間マリーナ"ＭＡＲＩＮＯＡにおいて、同様なアンケート調査を実施し、その一部についてはすでに報告した。[2),3)]

この調査では、平成6年7月～8月の間（合計１０日間）、①来訪者の属性・居住地、②来訪目的・来訪頻度・交通手段、③施設の利用状況、④施設利用前の意識、⑤施設利用後の意識について、合計４１項目からなる「アンケート調査」を実施し、結果を分析した。なお、艇置オーナー・クルーに対しては、さらに上記の項目のほかに、①施設の利用状況、②施設利用前の意識、③施設利用後の意識について、１０項目を追加して調査した。

本論文では、アンケート調査の内容をできるだけ詳細に報告するため、得られた基礎データの一次統計量に主眼を置き、若干の考察を加えることとする。このため、まず、ＭＡＲＩＮＯＡおよびアンケート調査の概要について簡単に紹介し、続いてアンケート調査結果について詳細に述べる。

2．マリーナＭＡＲＩＮＯＡの概要

位置的に大陸に近いこともあって、古くから海をとおし、大陸への窓口として人、モノ、文化の交流拠点であった福岡市では、第３次産業を中心に発展してきており、商業や中枢管理都市を目指してきたこともあり、主に流通用地や都市施設用地確保のための開発が多かった。このため、都市づくりと博多湾との関係は密接にかつ有機的に位置づけられ、「海に開かれたアジアの交流拠点都市」を基調テーマに、都市像のひとつの柱として「海と歴史を抱いた文化の都市」を掲げて、福岡市の個性づくりに取り組んでいる。福岡市のウォーターフロント開発は、この東西約10km、南北約6km の半ば閉じた静穏水域をもつ博多湾を中心に展開している。[4),5)]

このような福岡市の基本構想のもとに、福岡市の第３セクターである博多港開発㈱により、福岡市都心部の西側にマリーナを中心とした複合施設の開発が進められてきた。マリーナＭＡＲＩＮＯＡは、国際的なマリーナを中心に、ショッピングや飲食も楽しめる多機能なアーバンリゾートであり、すべての人に開かれた発信型の海洋

＊ 正会員 九州共立大学工学部土木工学科（〒807 北九州市八幡西区自由ケ丘1-8）

図－1　MARINOAの設置場所

施設として福岡市西区小戸地区に建設され、（図－1参照）平成4年2月に博多港開発㈱とセゾングループ、地元企業および漁協によって設立された㈱西福岡マリーナによって運営されている。開業は平成5年4月である。

マリーナの機能は、①ハーバーサービス（ヨット・ボートの艇置、整備、諸サービス、舟艇販売）、②マリノアクラブ（メンバーズクラブ）の運営、③マリンサービス（ボートライセンススクール、船舶のチャーター）、④商業サービス（レストラン、ショップ、研修室、展示室）である。舟艇の保管能力は、870隻（水域保管210隻、陸域保管660隻）で、事業面積は、9.6 ha（水域5.9ha、陸域3.7ha）である。

3．アンケート調査の概要

今般のアンケート調査を実施するにあたっては、事前に、㈱西福岡マリーナおよび九州共立大学の関係者により、調査場所であるMARINOAにおいて、調査内容（項目）、要領、日程などについて打ち合わせを行った。アンケート調査の概要を表－1に示す。なお、調査実施日は土・日曜日とし、調査時間は 11:00～19:00 とすることとした。ただし、19:00 以降に提出された「アンケート回答用紙」は回収箱の中に入れて貰い、事務所で一時保管して貰った。

表－1　アンケート調査の概要

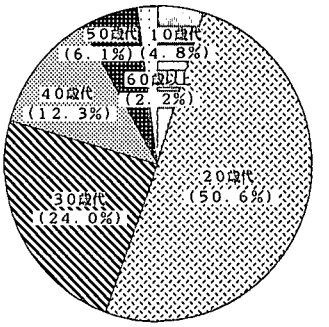
調査対象	MARINOAへの来訪者全員
調査期間	平成6年7月～8月の10日間
調査方法	来訪者に調査票を配布・回収
調査項目	大項目30、合計41項目
	艇置者等には別途10項目追加
回収数	2557
有効回収率	2417（94．5％）

なお、有効回収率としては、ほぼ全項目にわたって回答しているものを有効回答とした。

4．来訪者の属性、居住地

（1）来訪者の年齢、性別

来訪者の約51％が20歳代で、続いて30歳代が約24％、40歳代が約12％を占めており、夏場のマリンレジャー施設の特徴が現れている。（図－2参照）

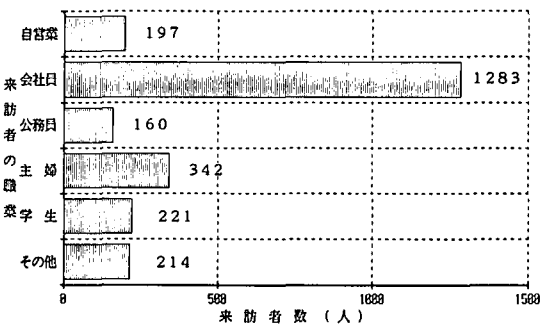


図－2　来訪者の年齢

また、来訪者の性別では、女性が約53％と男性を上回っているが、これは女性グループだけでの来訪がある程度みられたことによるものと思われる。

（2）来訪者の職業、区分

来訪者の職業は、約53％が会社員と回答しており、続いて第2位は約14％で主婦となっている。（図－3参照）これは女性グループや夫婦連れの来訪者がある程度みられたことによるものと思われる。

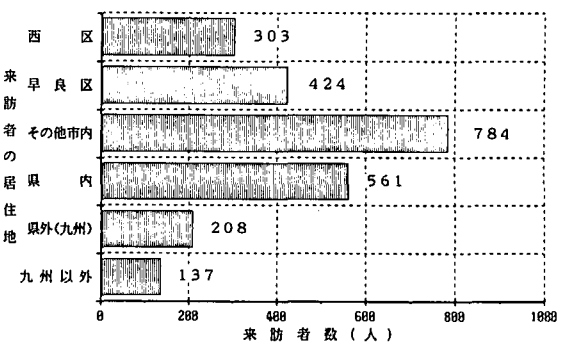


図－3　来訪者の職業

また、来訪者の区分としては、艇置オーナー約1．7％、クルー（同乗者）約4．3％、一般約94％であるが、艇置オーナーやクルー（小計約6．0％）は調査開始時刻（11:00）以前の来訪も若干みられたので、実際の来訪者数は約6％を少し上回っているものと思われる。

（3）来訪者の居住地

本調査では、来訪者の居住地として、地元の西区、隣接の早良区、その他の市内、県内、県外（九州内）、九州以外として区分した。福岡市内からの来訪者が合計で



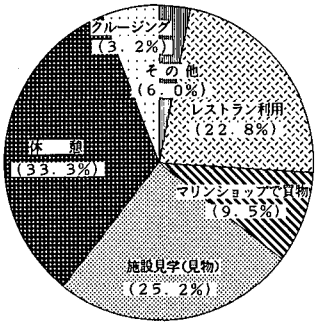
図－4　来訪者の居住地

約６３％と過半数を占めている。（図－４参照）

５．来訪目的、来訪頻度、交通手段

（１）来訪の目的

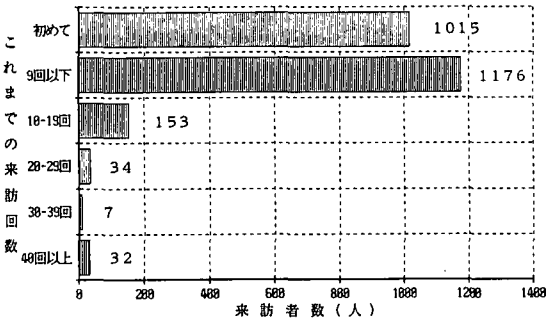
平成６年夏は例年と比較して猛暑といえるが、主たる来訪目的（複数回答）は、休憩が約３３％、施設見学が約２５％、レストラン利用が約２３％と多く、クルージング目的は約３．２％と非常に少ない。（図－５参照）



図－５　来訪者の来訪目的

（２）これまでの来訪回数

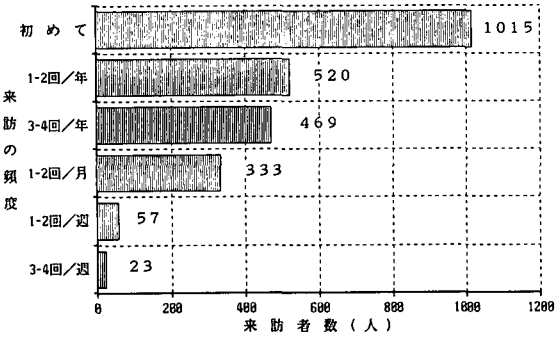
ＭＡＲＩＮＯＡが平成５年４月に開業して以来、調査時点までに約１年３ケ月しか経過していなかったこともあり、初めてあるいは９回以下の人がそれぞれ約４２％、約４９％と多い。（図－６参照）



図－６　これまでの来訪回数

（３）来訪の頻度、交通手段、ＭＡＲＩＮＯＡまでの所要時間

ＭＡＲＩＮＯＡへの来訪頻度を図－７に示す。初めての人約４２％に続いて、１～２回／年の人が約２２％と多く、ＭＡＲＩＮＯＡまでの交通手段（複数回答）は、公共交通機関の利用の便がよくないこともあり、約９３



図－７　来訪者の来訪頻度

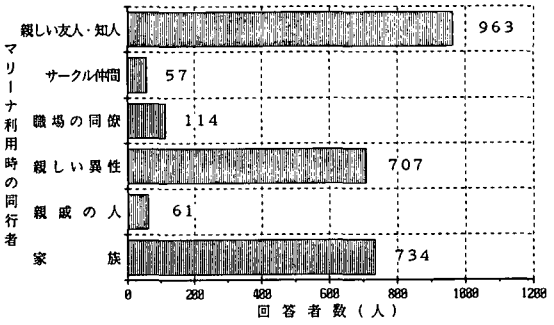
％が自家用車によっている。また、ＭＡＲＩＮＯＡまでの所要時間（ｘ）と来訪者数（ｙ）との関係について、単回帰分析を行った結果、次のような関係式が得られた。（検定結果は信頼度９５％で有意、相関係数：-0.8975）

ｙ＝１０８４－３８６．１ｘ

６．施設の利用状況

（１）利用時の同行者

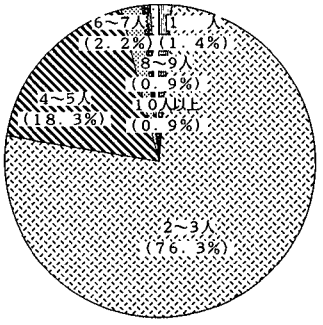
マリーナ利用時の同行者（複数回答）は、親しい友人・知人が約３７％、続いて家族が約２８％と多く、親しい異性が約２７％となっている。（図－８参照）これは、図－５に示したように、来訪の主たる目的が休憩、施設見学、レストラン利用などであったことによると思われる。



図－８　マリーナ利用時の同行者

（２）マリーナ利用時の人数、利用（滞在）時間

マリーナ利用時の人数は、２～３人が約７６％、４～５人が約１８％と比較的少人数での利用が多い。（図－９参照）



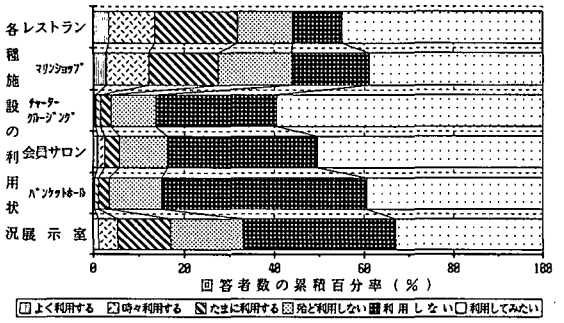
図－９　マリーナ利用時の人数

また、マリーナの利用（滞在）時間（ｘ）と来訪者数（ｙ）との関係について、単回帰分析を行った結果、次のような関係式が得られた。（検定結果は信頼度９５％で有意、相関係数：-0.8806）

ｙ＝１２５５－１４６．１ｘ

（３）各種施設の利用状況

各種施設の利用状況については、いずれも「利用してみたい」が多く、「利用する」とある程度の人が回答している項目は、レストラン、マリンショップ、展示室などである。また、チャータークルージングなどの利用が少ないのは、ＭＡＲＩＮＯＡが平成５年４月に開業して



図－１０　各種施設の利用状況

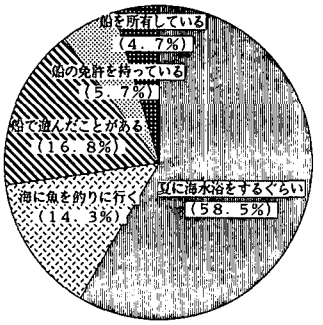
以来、調査時点までに約１年３ケ月しか経過していなかったことなどによると思われる。（図－１０参照）

（４）近くの施設との共同（連携）利用について

近くのドライブインシアターとの共同（連携）利用（複数回答）については、「映画鑑賞の前後にレストランや休憩のために利用」との回答が比較的に多く（合計約３８％）、近くのシーサイドももち（福岡タワー・マリゾン）との共同利用（複数回答）については、「ドライブのついでに利用したい」が約３０％と多い。また、福岡ドームとの共同利用（複数回答）については、「時間があれば利用したい」が約２８％と比較的多い。

（５）海との係わりについて

都市住民の親水性に関する意識の一つとして、あなたと海との係わりについての質問項目に対しては、「夏に海水浴をするぐらい」が約５９％と多く、続いて「船で遊んだことがある」が約１７％となっている。（複数回答、図－１１参照）

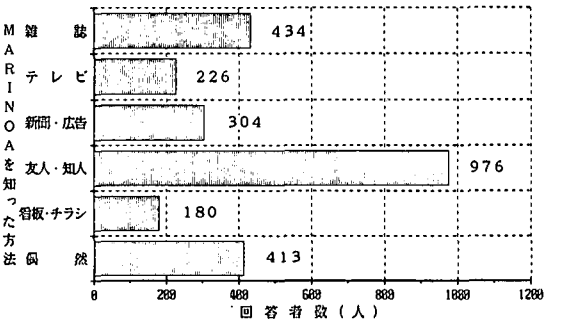


図－１１　あなたと海との係わりについて

７．施設利用前の意識

（１）ＭＡＲＩＮＯＡを知った方法、知名度

ＭＡＲＩＮＯＡをどのような方法で知りましたか（複数回答）については、「友人・知人から」が約３９％、続いて「雑誌から」が約１７％となっており、いわゆる口コミにより知られることが多いことが分かる。（図－１２参照）また、ＭＡＲＩＮＯＡの知名度については、来訪者の約４２％が「まあまあ知られている」と回答し、続いて約２４％が「少し知られている」で、「よく知られている」は約２０％となっている。ＭＡＲＩＮＯＡが開業して以来、調査時点までに約１年３ケ月しか経過し

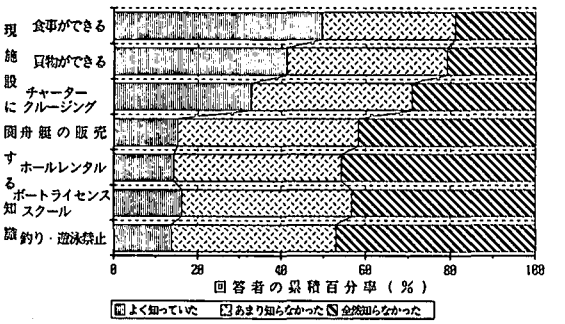


図－１２　ＭＡＲＩＮＯＡを知った方法

ていなかったことを考えれば、この程度の知名度が実状であろう。

（２）現施設に関する知識

来訪者の利用前の各種施設に関する知識は、「食事ができる」すなわち、レストランとしての機能を約５０％がよく知っていたと回答し、続いて「買い物ができる」ショッピングとしての機能を約４１％がよく知っていたと回答しており、その他のマリーナとしての機能はまだ十分には知られていないようである。（図－１３参照）



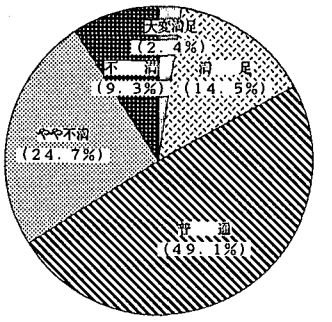
図－１３　現施設に関する知識

また、現施設について約５７％が「普通」、約２６％が「興味があった」と回答している。

８．施設利用後の意識

（１）現施設についての満足度

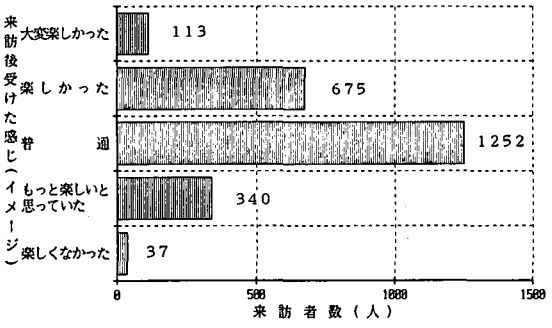
ＭＡＲＩＮＯＡの現施設（レストラン、売店、修理施設など）だけで満足していますかについては、半数近くの約４９％が「普通」と回答し「やや不満」が約２５％、「満足」が約１５％となっている。（図－１４参照）



図－１４　現施設についての満足度

（２）来訪後受けた感じ（イメージ）

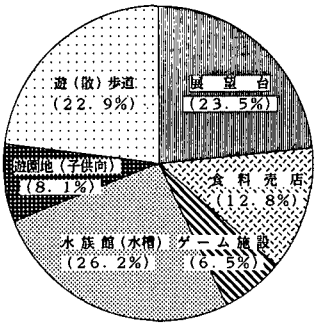
来訪後受けた感じ（イメージ）として、来訪者の約５２％が「普通」、約２８％が「楽しかった」と回答し、「もっと楽しいと思っていた」の約１４％を上回っている。（図－１５参照）



図－１５　来訪後受けた感じ（イメージ）

（３）増設を希望する施設、禁煙コーナーの設置

海洋性レクリエーション（マリンレジャー）施設だけに、増設を希望する施設としては、水族館（水槽）が約２６％と多く、続いて展望台が約２４％となっている。現在各地で流行中の「ゲーム施設など」の希望は約６．５％と少ない。（複数回答、図－１６参照）

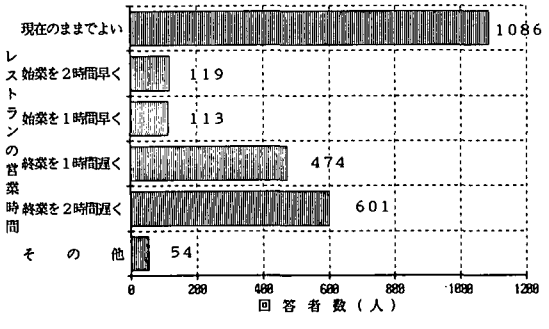


図－１６　増設を希望する施設

また、禁煙コーナーの設置については、現在一部の場所に喫煙コーナーが設置され、それ以外の場所では禁煙となっていることもあり、来訪者の約５５％が「現状のままでよい」と回答している。

（４）レストランの営業時間

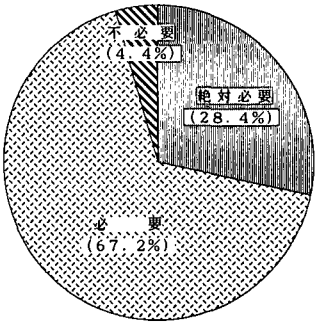
現行のレストランの営業時間（除夏季）は１１：３０～２１：３０となっており、来訪者の約４４％が「現在のままでよい」、約２５％が「終業を２時間遅く」、約１９％が「終業を１時間遅く」と希望しており、都市型住民の特徴が現れている。（複数回答、図－１７参照）



図－１７　レストランの営業時間

（５）公共施設としてのマリーナの必要性

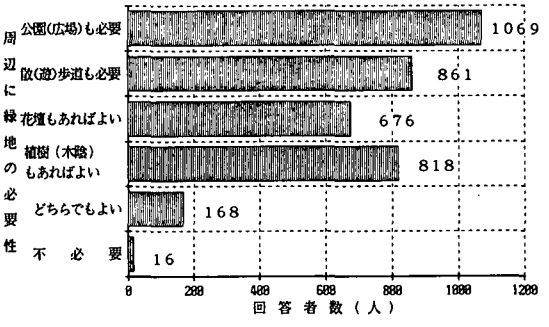
公園などと比較して、公共施設としてのマリーナの必要性については、約２８％が「絶対必要」、約６７％が「必要」と回答しており、大多数の来訪者が公共施設としての必要性を感じている。（図－１８参照）



図－１８　公共施設としての必要性

（６）周辺に緑地などの必要性

ＭＡＲＩＮＯＡの周辺にはすでにある程度の緑地が整備されているため、公園が約３０％、散歩道が約２４％と希望が比較的多い。（複数回答、図－１９参照）



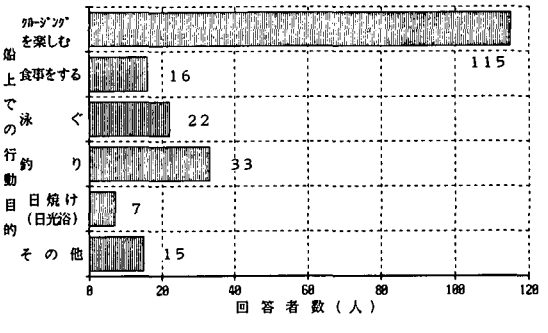
図－１９　周辺に緑地などの必要性

９．艇置オーナーに対する調査結果

艇置オーナー・クルー（同乗者）のみを対象とした調査結果（回答数：１６４）は、下記のとおりである。

（１）船上での行動目的

船上での行動目的（複数回答）としては、当然のことながら、「クルージングを楽しむ」が約５５％と多く、続いて「釣り」が約１６％、「泳ぐ」が約１１％となっている。（図－２０参照）

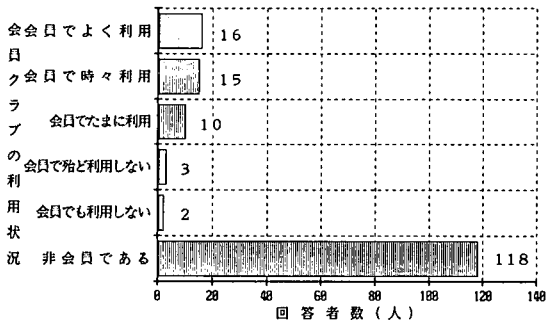


図－２０　船上での行動目的

（２）メンバーズクラブの利用状況

ＭＡＲＩＮＯＡのメンバーズクラブ（マリノア海洋倶

楽部）の利用状況については、回答者の約２８％（４６人）が会員となっており、約９．８％が「会員で、よく利用する」、約９．１％が「会員で、時々利用する」と回答している。（図－２１参照）

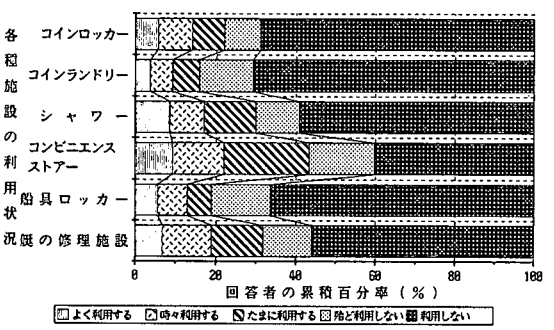


図－２１　メンバーズクラブの利用状況

なお、会員となっている人の割合が比較的少ないのは、回答者が艇置オーナーのみでなく、クルー（同乗者）も含まれていることなどによると思われる。

（３）各種施設の利用状況

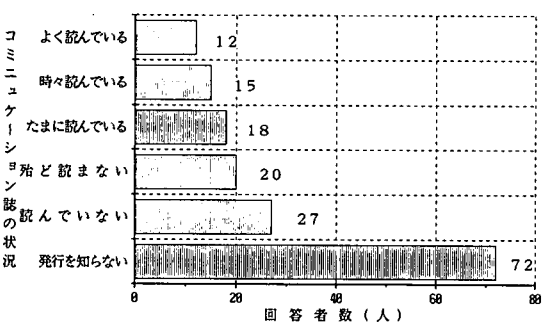
各種施設の利用状況については、コンビニエンスストアー、艇の修理施設、シャワーなどはある程度利用されているが、その他の施設はまだあまり利用されていないようである。これは、ＭＡＲＩＮＯＡが開業して以来、調査時点までに約１年３ケ月しか経過していなかったことなどによるものと思われる。（図－２２参照）



図－２２　各種施設の利用状況

（４）コミニュケーション誌について

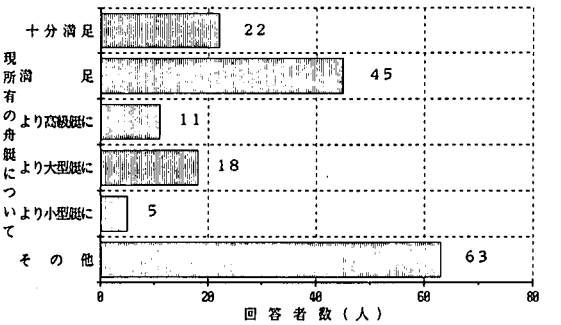
コミニュケーション誌（マリノアプレス、季刊）については、「よく読んでいる」が約７．３％、「時々読んでいる」が約９．１％、「たまに読んでいる」が約１１％と回答しており、ＭＡＲＩＮＯＡと回答者間のコミニュケーションは十分とはいえない。（図－２３参照）



図－２３　コミニュケーション誌の状況

（５）現所有の舟艇について

現所有の舟艇について、約２７％が「満足している」、約１３％が「十分満足している」と回答しており、「より大型艇にしたい」の約１１％などを上回っており、現状に満足している人が多いようである。（図－２４参照）



図－２４　現所有の舟艇について

１０．まとめ

都市臨海部水辺空間の利用形態の一つである「民間マリーナ」（福岡市のＭＡＲＩＮＯＡ）において「アンケート調査」により、利用者の利用状況ならびに意識に関する調査を実施した。主要な結論は次のとおりである。

（１）ＭＡＲＩＮＯＡおよびアンケート調査の概要ならびに得られたデータの一次統計量と若干の考察に主眼を置いて述べた。

（２）都市臨海部の民間マリーナにおける利用状況および意識について、基本計画データが得られた。

（３）ＭＡＲＩＮＯＡまでの所要時間や利用（滞在）時間と来訪者数について単回帰分析を行った結果、よい相関関係が得られた。すなわち、所要時間が短いほど来訪者数が多く、地域に密着した施設であることなどが分かった。

今後さらに他場所における調査を行って比較検討するとともに他変量解析などによる分析も進めて行きたい。

最後に、今般の調査にあたって御協力・御助言をいただいた㈱西福岡マリーナ、九州共立大学の関係者に感謝いたします。

参考文献

1）片山正俊：都市臨海部の水辺空間における利用状況および利用者の意識－北九州市の公共マリーナにおけるアンケート調査結果－、海洋開発論文集、Vol. 10、pp. 159-164、1994.

2）中野博司・片山正俊：福岡市のマリーナMARINOAにおける利用状況調査、平成6年度西部支部研究発表会講演概要集、pp. 670-671、1995.

3）佐々木由里・片山正俊：福岡市のマリーナMARINOAにおける利用者の意識調査、平成6年度西部支部研究発表会講演概要集、pp. 672-673、1995.

4）岡道也：福岡市・北九州市のウォーターフロントの現状、建築雑誌、VOL. 108、NO. 1351、pp. 36-39、1993.

5）内田唯史・浮田正夫・中園眞人・中西弘：都市沿岸域における海岸アメニティ価値の評価に関する研究、土木学会論文集、No. 509／Ⅱ-30、pp. 211-220、1995.